

会 員 名 簿 (A B C 順)

橋 本	能	〒156	世田谷区大原 2-1-10	TEL 321-4787
伊 藤	洋	〒170	豊島区駒込 4-9-29-401	TEL 910-0991
岩 瀬	孝	〒158	世田谷区瀬田 4-37-22	TEL 700-8975
神 保	剛	〒151	渋谷区西原 3-33-13 水野荘	TEL 467-7923
小 林	卓	〒272-01	市川市行徳駅前 2-16-6-303	TEL 0473-57-5127
皆 吉	郷 平	〒154	世田谷区下馬 5-1-4	TEL 421-1813
野 池	恵 子	〒180	武蔵野市吉祥寺本町 3-2-4-101	TEL 0422-22-7602
関 谷	苑 子	〒161	新宿区上落合 1-1-15-617	TEL 364-4084
竹 田	宏	〒272	市川市若宮 3-31-9	TEL 0473-34-2567
戸 口	民 也	〒852	長崎市住吉町 17-21-103	TEL 0958-47-3498

後 記

1977年の暮近くに『エイコス』第1号を創刊した。あれから早くも2年余。ようやくここに第2号を刊行することができた。

年に1冊刊行の予定を守りきれなかったことについては深くお詫びをしたい。特に第1号をご覧いただき、拙いながらも将来の結実大成を慮ってくださって、物心両面にわたってご援助いただいた諸先生、諸兄姉には恩を仇で返すような「1号雑誌」になってしまい、ご心配もおかけしたことを申し訳なく思っている。

言い訳がましくなるが、この2年間無為に過ごしてきたのではなく、「17世紀仏演劇研究」の例会を相変らず土曜日（最近は隔週になったが）の午後に続けてきた。リストでご覧の通り、1630年代の悲劇をフランス国立図書館からマイクロ・フィルムで取り寄せ、片端から分担を決めて読破していった。究極の目的は出発の時と同様、フランス古典悲劇生成の秘密を作品の上から探ることである。マイクロ・フィルムの到着がかなり遅れたこと、読了した作品すべてが必ずしも論ずるに足るものでなかったこと、そしてわれわれの力不足から読めば読むほど、知れば知るほど軽々に論文を書くことができなかったことなどなどが、第2号の論文集刊行遅延の主たる理由であった。お詫びとともにご了解を得たいと思う。もちろんまだこの第2号でも力不足は歴然としている。しかしとにかく第2号にまとめておかなければならないと考えての刊行である。大方のご批判、ご叱正を切にお願いする次第である。

さて1630年代の悲劇をほぼ読了した今、次の段階として40年代の悲劇（若干手をつけ始めてい

るが)、30年代の悲喜劇、田園劇との関連も考察していかなければならない。まだまだ道は遠い。

われわれの読んだ範囲に限ってざっと考えてみても、30年代の悲劇の復興は確かであり、題材も多種多様である。その中で目立つのはセネカに材を仰いだ作品が先行していること、そのうえ間隔をおいて数年後にまたセネカ種の作品が出現したこと、英国史(しかもかなり当代に近い史実)を扱った作品の出現などである。これらは何故なのか。この両者に関連はあるのか。イギリスに渡った詩人もいるのに何故シェイクスピアはフランスに入らなかったのか。『ソフォニスブ』(1634)のあとのバロック的な作品は果たして観客の好みによるものだったのか。30年代後半、特に神話に基づく悲劇でスペクタクル性が強いのは何故か。宮廷バレエ、田園劇の隆盛との関連があるのだろうか、など浮かんできている疑問は数限りない。そのいくらかでも解消するのがわれわれのさしあたってのささやかな願望である。

最後に今回のマイクロ・フィルム注文に際しては、慶応義塾大学のフランス語の諸先生のご好意により、同図書予算にその支払いの多くを負った。ここに記して心からの感謝を申し述べたい。

(H・I)

エイコス II

発行日 1980年8月10日

発行者 17世紀仏演劇研究会

〒162 東京都新宿区西早稲田早稲田大学
教育学部 伊藤洋 C/O

編集 小林卓

印刷 (有)セミナー出版会

〒241 横浜市旭区鶴ヶ峰本町1202

頒価 500円